

地域とのかかわり
紹介します!

施設・事業所の 地域活動 レポート



No.2 社会福祉法人

松寿苑



大槻勝也 総務部 リーダー

1994年日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科卒業。同年4月社会福祉法人綾部市社会福祉協議会入職。コミュニティソーシャルワーカー、ボランティアコーディネーターとして勤務。その後、2003年4月社会福祉法人松寿苑入職。介護職員として綾部デイサービスセンター勤務を経て、現在に至る。

松寿苑は、地域の方々の信頼を礎として活動しています。この信頼は、設立63年の歴史の中で歴代の役職員が日々の実践活動を積み重ねることによって得た最も大切な財産です。活動に当たった特徴は、4つのサービス拠点ごとに地域の方々が後援会を組織してもらっていることです。日頃から地域の方々が当苑を気にかけて、物心両面で活動の後ろ盾となって支えてもらえる環境にあることは大変心強いです。施設と後援会が両輪となって協働活動を行うことは、施設が地域に根付き信頼を得て、さらに充実していく大きな要因となっています。

本稿では、法人理念である「人類愛善～ひとりひとりを大切に～」の具現化に向けて当苑が取り組んでいる地域活動を紹介します。

法人概要

法人理念「人類愛善～ひとりひとりを大切に～」を基に、「人材」「業務プロセス」「ご利用者」「財務」の4つの視点を基本方針に掲げて質向上に努めています。高齢者総合福祉施設として、「地域のために」をモットーに、地域の皆様の声に根ざし、信頼される福祉の拠点を目指して、日々実践を積み重ねています。

住所：京都府綾部市田野町田野山2番地163

ホームページアドレス：<http://www.asjn.jp/>

立地条件：綾部市は京都府中北部にあり、福知山市や舞鶴市などに隣接しています。絹織物が盛んで、グンゼ発祥の地でもあります。由良川が市街地を流れ、自然豊かな里山に、田園、農村が広がっています。

松寿苑のあゆみ：1953年5月養老施設（現在の養護老人ホーム）開設。綾部市が建設し、大本社会事業団が経営を受託。1957年社会福祉法人信光会設立。1975年特別養護老人ホーム開設。1978年社会福祉法人信光会解散。1979年社会福祉法人松寿苑設立。

経営施設：養護老人ホーム松寿苑、ケアハウスウォーターヒルズ松寿苑、特別養護老人ホーム松寿苑／短期入所生活介護、特別養護老人ホーム第2松寿苑／短期入所生活介護、綾部デイサービスセンター、松寿苑訪問介護事業所、松寿苑居宅介護支援事業所、綾部老人介護支援センター、特定施設ケアハウスのやま、グループホームたのやま、グループホームうえずぎ、うえずぎ松寿苑デイサービスセンター、綾部市西部地域包括支援センター、高齢者支援センター松寿苑（デイサービスセンター、高齢者生活支援ハウス、居宅介護支援事業所、小規模特養あたご）、西八田高齢者支援センター松寿苑（小規模特養おかやす、小規模多機能ふれあい）



クールスポット

夏場に高齢者が、節電として冷房の使用を控えて熱中症などになることを防ぐため、冷房設備のある施設を開放したり、施設でイベントを開催したりするなどして涼む場所を提供しています。7～9月の

高齢者のみなさん！
みんなで一緒に涼みませんか？



暑い夏を家でひとりで過ごすよりも



みんなで涼んだほうが良いこといっぱい

- ・家の電気・エアコンを消して節電に
- ・涼しい施設で熱中症防止
- ・楽しい交流やイベントがある日もあります

冷房の効いた高齢者施設を「涼やかスポット」として地域のご高齢の皆さまに開放します。過度な節電による熱中症予防や、地域交流の場所としてもぜひともご利用ください！

○涼やかスポットとは

- 冷房が効いた涼しい施設を開放
- 自由に参加できるイベントの実施（施設により異なりますのでお問い合わせください。）



○実施施設・日時

特別養護老人ホーム第2松寿苑 田野町山2-169

高齢者支援センター松寿苑 八幡台町寺町1-1-25

西八田高齢者支援センター松寿苑 鹿坂町大道16

7月7日～9月30日 月～金（祝日除く） 13:00～16:00

問い合わせ：社会福祉法人 松寿苑
〒623-0034京都市鞍部区田野町山2-163
TEL: FAX:

夏期間、祝日を除く月～金曜日の13～16時に、映画上映、カラオケ、老人クラブとの交流、健康体操、パッチワーク教室、地域作品展、夏祭りなどのイベント開催やサークル活動、サロン活動のほか、読書スペースなどとして利用することができます。地域のボランティアやサークル活動をされている方々の声を聞きながら施設利用を進めています。



ふくしのえき 広小路

民家の一部を借り受けて、地域の方々が自由に利用できるフリースペースとして「ふくしのえき 広小路」を開設しています。介護予防拠点として健康運動教室、レクリエーション教室、料理・栄養教室などの取り組みも行っています。

地域のボランティアの発掘を行い運営にかかわってもらっています。また、レクリエーション協会や民生児童委員、介護支援専門員、行政、後援会と連携しながら介護予防プログラムを進めています。



配食サービス

在宅で生活している一人暮らしの高齢者などを対象に、365日型の配食サービスを実施しています。月～金曜日までは綾部市からの受託事業として、土・日曜日は地域住民の意向を踏まえて独自事業で夕食を配っています。1日約100食を配達する中で、声かけを必ず行うなど安否確認を徹底し、地域の要支援者に対し暮らしのセーフティネットの役割を果たしています。家族や市、介護支援専門員、民生児童委員、配達にかかわる地域の方々、施設スタッフと連携して実施しています。



松寿苑フェア

30年以上継続して、施設内で利用者作品展を開催しています。また、さらに多くの地域の方々に作品を見ていただくために、地域に出向いて開催しています。ショッピングセンターの貸し会場で、利用者作品展や芸能発表会、福祉講演会などのイベントを行い、買い物の機会に気軽に来場してもらっています。毎年、地域の方々や関係団体に参画いただいています。



松寿苑オープンカフェ

当苑への理解と関心を高めると共に、利用者と地域の方々との交流や、人材確保を図るため、地域のボランティアに声をかけて来場やプログラムへの参加を促しています。毎月1回（第4土曜日）に地域ふれあいサロン、月替わりイベント、介護相談、就職見学説明会を行っています。





居酒屋松ちゃん

交流スペースで、利用者に限らず、地域の方々にも楽しく利用していただける居酒屋サービスを提供しています。通常メニューのほかに、毎回趣向を凝らした料理を限定メニューとして提供し、利用者やスタッフとの交流も楽しんでいただいています。毎週金曜日の18～21時にオープンしています。



松寿苑図書室

当苑の蔵書や市民の方々から寄贈いただいた書籍をご覧いただき、貸し出しも行っています。地域の方々も気軽に活用いただけるスペースを提供しています。月～土曜日（祝祭日を除く）の10時30分～16時30分に利用できます。



松寿苑インフォメーション

認知症に関する不安や悩み、介護の方法、サービス利用などについて、「どこへ相談すればいいのかわからないんです」という声がありました。そのため、当苑の各種相談窓口についての案内を作成し、市内全戸に配布しました。その後もいろいろな機会に当苑の活用を呼びかけて、専門職が専門性を地域の方々に還元すべく相談に応じています。この取り組みは、地域の顕在的、潜在的ニーズの発掘につながっています。

認知症に関する不安や悩み、介護の方法、サービス利用などについて、「どこへ相談すればいいのかわからないんです」という声がありました。

松寿苑 インフォメーション

情報・相談・案内窓口をご利用ください。

お知らせ

各地域において、「どこへ相談すればいいのかわからないんです」という声をよく聞きます。松寿苑では、従来から介護や福祉に関する情報・相談窓口を開設しています。お気軽におたずねください。

●総合窓口

各種おたずねの総合窓口です。要件に応じて、各担当スタッフ、または関係機関・団体をご案内いたします。

総務部

田野町 電話

高齢者支援センター松寿苑

八景合町 電話

うえずぎ松寿苑デイサービスセンター

上杉町 電話

西八田高齢者支援センター松寿苑

時安町 電話

●高齢者の総合相談窓口

綾部市西部地域包括支援センター
兼町（兼部市ふれあいの家2階）
電話

●認知症 あんしんサポート相談窓口

グループホームたのやま
田野町 電話
グループホームうえずぎ
上杉町 電話
小規模多機能ふれあい
時安町 電話

●介護・福祉サービス利用について

綾部市老人介護支援センター
田野町 フリーダイヤル

●ボランティア・実習・交流等

●講師派遣・協力依頼
総務部
田野町 電話

認知症ケア教室



グループホームの入居者家族

から、「認知症の勉強会や介護者家族同士の交流会がしたい」という要望がありました。このため、民生児童委員、地域包括支援センター、介護支援専門員、後援会と連携し、3カ月に1回、認知症の人を介護している家族が支え合う教室を開催しています。ほかにも「認知症ケアを考える会」「知っとくデー」などの地域活動を行うことで、地域の方々の認知症に対する理解が深められています。

クールスポット事業で 地域の方々が集まる施設に

2012年夏の節電に関する取り組みの一つとして、京都府から「高齢者涼やかスポット設置事業」について協力依頼がありました。この事業は、夏期期間の電力供給不足が懸念されることから、過度な節電で冷房などの使用を控えて熱中症などになることを防ぐため、在宅の高齢者などに涼んでもらう場所として「高齢者涼やかスポット」を設置した施設に補助金を交付するというものです。

当苑では、従来から一年を通じて施設の多目的ホールや会議室を地域の方々に使用してもらっていた経緯もあったため、新たなプログラムを検討しゼロからスタートする必要はなく、これまでの地域へのサービス提供に、夏期期間のクールスポットとしての役割を加えて呼びかけることにしました。まず、誰でも涼みに来てほしいことを伝えるために、ソーシャルワーカーや担当者がチラシを作成し、広報紙やホームページに掲載したり、地域に配布・掲示したりして周知を図りました。後援会の方々にも、積極的な施設利用と近所の方への声かけをしてもらいました。

クールスポット期間中は、囲碁会やパッチワーク教室などの趣味のサークル活動、健康体操、映画上映、老人クラブとの交流、歌や踊り、大正琴などのボランティア企画、小学生・中学生との世代間交流などを、地域の方々や関係団体と連携して行っています。また、地域住民の要望を聞いていく中で、住民のサロン活動などに施設を開放したり、読書スペースを提供したり、カラオケをしていただいたりするなど、新たな

アイデアで施設利用を進めています。

2012年の取り組み開始から2015年までの4年間に、クールスポットに支給される補助金を活用し、扇風機、DVDレコーダー、テレビ、マイク、机などを整備しました。利用者からは、「暑さがしのげるので、度々来ています」「家にいると暑くてもエアコンで電気を使うのは気が引ける」「家では、節電のためにエアコンはつけていない」などの声があり、施設がクールスポットに取り組む意義を感じています。2015年度は約350人の方々が利用しました。

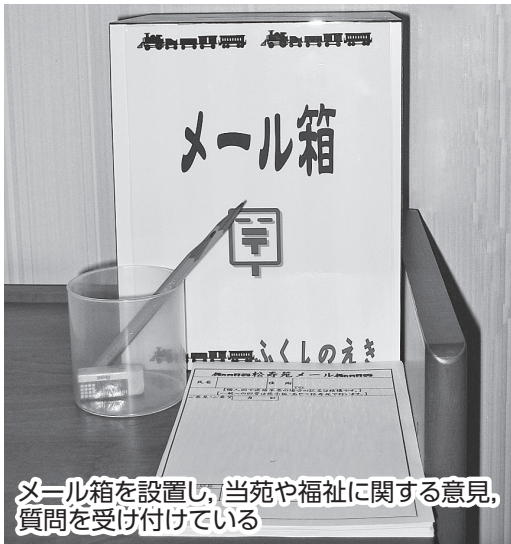
今後は、夏休み中の地域の児童、生徒たちにも施設利用を呼びかけて、宿題やボランティア活動・福祉体験の場を提供し、高齢者との世代間交流を進めたり、地域の方々から施設利用についてのアイデアを募集したりするなど、地域の社会資源の一つとして活用を促進していきたいと思っています。



クールスポット期間中、囲碁会やパッチワーク教室などを開いている

ふくしのえき ～地域における福祉の拠点を目指して

2002年に民家（空き店舗）の一部を借り受けて、日中無料で開放し、地域住民が自由に利



用でき、交流やサークル活動に活用できる場にしようと「ふくしのえき 広小路」を開設しました。名称にある「ふくしのえき」には、電車に乗るために駅に行くのと同じように、福祉のことは「ふくしのえき」に行こうと思ってもらえるような拠点を目指そうという思いが込められています。

開設当初から、松寿苑後援会が支援団体として参画し、運営費用を含めて支援をしてもらいました。また、地元の広小路自治会や市にも理解を得ました。

「ふくしのえき」は、当苑の情報を提供するだけでなく、気軽に集える休憩場所や高齢者同士の交流、サークル活動に活用できます。近くにある眼科や市役所などに行った帰り、バスを待つ時間に立ち寄られる方もいます。また、囲碁を打ったり将棋を指したりしに来る方もおり、さらに、自治会や商工繁栄会の会合などで地元の方にも活用していただいています。

室内には掲示板を設け、当苑の広報紙などを貼り出しているほか、各施設における利用者の暮らしの様子などを写真で紹介したり、当苑利用者の作品を展示したりすることで、通りすがりに立ち寄られた方にもいろいろな福祉情報が

提供できるようにしています。

また、相談受付員が常駐しており、訪れた方への案内や、相談があれば受け付けています。相談は当苑の介護支援専門員に伝え、相談に応じる体制をとっています。メール箱も設置し、当苑や福祉に関する意見、質問を入れておけば翌日には回答を掲示板に貼り出すなどの取り組みも行っています。

2007年度からは、高齢者を対象に、介護を予防する観点からの活動も始めました。料理・栄養教室（月2回）は、低栄養状態予防のための相談や調理実習などを栄養士が指導しています。健康運動教室（月3回）は、筋力維持・向上のために効果的な運動をトレーナーが指導しています。レクリエーション教室（月2回）は、ゲームやクラフトワーク、頭や手指の体操などについて、レクリエーション協会の指導者が指導をしています。このように、多職種や関係者との調整を行いながら取り組み、翌年の2008年度からは市から介護予防事業として委託を受けました。

運営は、ボランティアセンターにボランティア募集の協力を得て、応募してもらったボランティアと一緒に取り組んでいます。当初は、参加者が確保できないことが課題でしたが、地域包括支援センターや地域の民生児童委員に活動を紹介し説明を繰り返すことにより、少しずつ参加者が増えはじめました。また、利用者が友人などに参加を呼びかけ、自然と活動の輪も広がるなど、地域住民とのつながりの大切さを改めて感じました。

各教室の終了後は、講師を囲んでのティータイムで話が弾みます。参加者からは、「毎回、

簡単な運動や料理を教えてもらい、家でもやっています」「ここに来るのが楽しみです」「今度みんなで食事をします」などの声が聞かれ、地域の方々に楽しく場を活用いただいています。2015年度は延べ510人の方に利用していただきました。

2015年10月には、2カ所目のふくしのえきとして、空き家を改修した「ふくしのえき たのやま1番地20」をオープンしました。認知症ケア専門士、介護職、介護支援専門員、栄養士などの多職種で構成するプロジェクトチームを立ち上げ準備を進めました。現在、介護支援専門員による介護相談（毎週）や、デイサービススタッフによる介護予防事業のすこやかシニア教室（月2回）を行っています。今後、地域の方々に呼びかけて、「認知症カフェ」や「若年性認知症の人及び介護者の交流会」「図書コーナー」など、活用してもらえるようなプログラムを検討しています。

「ふくしのえき」は、このような地域活動を通して、地域の方々に親しまれ、健康を維持し、安心・安全で心豊かな暮らしを続けていただくための福祉の拠点を目指していきたいと考えています。

施設が持つ機能や専門性を地域に還元していくために

当苑がサービスを提供する地域は、少子高齢化、過疎化が進み、社会環境や社会構造も変化し、福祉ニーズは複雑化かつ多種多様化しています。このような状況は、地域に住む誰もがかわりのある身近な事柄であり、地域全体で考え解決に取り組むことが求められます。

以前、当苑の4つの後援会会長による座談会が開かれた時、「大家族のように地域の方々が寄り添えるような形で運営してもらえたら大変うれしいです。地域の方々がふれあうことによって、自分の家族のように思っけて接してくれたら、地域全体が明るくなると思います」と、今後の施設と地域との関係性、地域と一体となった施設づくりに期待する発言がありました。施設が持つ機能や専門性を地域に還元する取り組みが望まれています。

これまで紹介した地域活動を通して、地域の方々と顔の見える身近な関係を築いていくことで、制度の狭間にあったり、生活のしづらさを抱えたりした人の課題が浮かび上がってきます。「住み慣れた地域で暮らし続けたい」、この切なる願いを実現するために、ソーシャルワーカーは個々の課題に対して地域の社会資源を結びつけたり、既存のサービスを充実させたり、時には新たな社会資源となるインフォーマルサービスを検討したりするなど、制度にとらわれない柔軟な考え方が必要です。地域の方々と真摯に向き合う温かいかわりがいかに大切かを、これまでの地域活動の展開により感じています。

これからも地域の方々の声を受け止め、共に歩んでいく施設として、信頼を高めていきたいと思っています。